



- 1 東大和療育センターの節電対策
- 2 リハ科主催のイベント
- 3 療育活動
- 4 療育活動
- 5 療育活動
- 6 発表論文の転載
- 7 行事案内・院内研修
- 8 人事異動

■ ■ 東大和療育センターの節電対策 ■ ■

院長 倉田 清子

今夏の大幅な電力需給不足に国を挙げて省エネ・節電対策の取り組みが行われています。センターは、500kw を超える電力の大口需要家の対象施設となることもあって、国や東京都の通知等に沿って、4月中旬から節電対策の具体策について検討を始めました。検討に当たっては、最も電力消費量が多く、かつ、削減の影響が大きい病棟の職員をはじめ医師、コメディカル職員などのほか、技術面から中央監視室の職員を加えてプロジェクトチームを編成し、6月初旬まで6回にわたり節電対策の検討を進めました。この間、外気温度と電力量との比較データの調査や、空調機器やエレベータなどを実際に止めたシミュレーションを行うとともに、都から派遣された専門の技術アドバイザーの助言や節電対策案の評価も受け入れながら実施計画案をまとめました。

計画の中心は、冷房運転に伴う空調機器類など動力系設備の使用制限と、照明器具類の節電が最も効果が大きい取り組みとなります。この点から、利用者への安全面とサービス面への影響、及び職員の業務遂行上の支障などを考慮した計画であると同時に、実施上の個別的な判断については医師が行うなど弾力性を持たせています。また、センターは医療、障害者施設であることから、電力制限の緩和措置があり、この申請を行い許可を受けました。ただし、これは「節電をしなくていいですよ。」ではなく、「できる限りの使用抑制に努め最大限の節電を行うように。」という内容です。

一方、ご利用者・ご家族の協力が何よりも大切です。説明の場で、『計画停電は二度とゴメンだ。我々もエレベータでなく階段にしよう、これならできる、健康にもそれが良い!』と、家族会役員の方々が話されたのをお聞きし心強く感じました。困難に直面したときこそ施設の対応力が試されます。職員はもとよりセンターを取り巻く多くの方々のご協力を得ながらできる限りの対策を工夫し、今夏を乗り切っていく決意です。しばらくの間、不便や不快感が生じることと思いますが、このたびの節電対策の趣旨をご理解の上、取り組みへのご協力をよろしくお願いいたします。

●○○リハ科主催のイベント○○●

初夏のダンスパーティ

理学療法士 小林 愛

皆さんが楽しみにしていた?年に1回のダンスパーティを6月28日(火)に行いました。その様子をお伝えします。

今年は、アルプスグループの皆さんによる「フレンズ」からスタート!“サバイバルダンス(TRF)”と“ありがとう(いきものがかり)”の曲に合わせて踊りました。その後、“太陽がくれた季節(青い三角定規)”に合わせて、見学していた職員さんや親御さん、利用者さん皆も参加し、車椅子ダンス Time! 元気に踊る様子が、まさに青春!でしたね～。

キャベツグループでは、ハワイアンダンスを披露。練習ではお花付きのフラフープをうまく持つことができなかった利用者さんも、本番ではしっかり持って高く上げることができました。

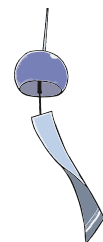
宙組ではゆったりとしたジャズワルツに合わせて、踊りました。車いすや職員の腕についていたシフォンの布が風でゆったりと揺れていて、利用者さんも心地よい風を感じたと思います。

ちょうちょグループでは、部屋を暗くして、お祭りやコンサートでよくみる光るブレスレットを付けてホテルをイメージして踊りました。参加者の皆さんは車椅子の上で手や足を大きく動かしてホテルが飛ぶ様子を表現。また、見学している利用者さんや、親御さんの腕にも光るブレスレットをつけてもらい、一緒に腕を大きく振りました。会場の皆さんが大きく腕を動かしたので一体感があり盛り上がりましたね～!

月組さんは明るいフォークダンスに合わせて二人一組で踊りました。ラストのキメポーズの時に、紙テープがパーっときれいに流れて、会場から「おお～!」と驚く声が聞こえました。とっても素敵でしたね。



個人部門では、職員とペアでお花を持ち幸せを皆さんにお届け～!するのを表現したり、大好きなAKB48の”Everyday,カチューシャ”の歌に合わせて49人目として踊る利用者さんもいらっしゃいました。利用者さんも、職員も、見学していた人も、みんな笑顔で、素敵なダンスパーティになりました。見に来てくれた皆さん、協力していただいた方々、どうもありがとうございました。また来年、楽しみにしててくださいね～!!



療 育 活 動

第 1 病棟

「田植え」をやりました!

指導員 阿部 禎夫

去る 5 月 19 日(木)、1 棟では全体活動で『田植え』を行いました。たくさんの発泡スチロールの箱を使って 1 棟のテラス前に即席の田んぼを作ったのですが、事前の活動でも箱に素敵な絵を描いて頂き、利用者さんは準備にととても協力して下さいました。



当日も晴天の空が雰囲気演出してくれる中、お一人お一人が「ぎゅっ!!」としっかり根付くように苗を泥の中に植え付けつつ大活躍。普段なかなか味わえない土の感触を感じながら、「むむっ!!、なんだあ〜??」といった様子を見せる方、さわり心地の良さを噛みしめるかのように田んぼに両手をじっ……と入れたままの方、最初から最後までニコニコ大笑いの方と、利用者さんの表情も本当に様々でした。



ちなみにお米は福井県産のコシヒカリ。収穫は 9 月末の予定です。それまではさやかな田園風景を楽しめますので、皆様いつでも 1 棟テラスにお越しください。取れたお米をどのようにするかは、その時期に改めて利用者さん方に発表予定です。お楽しみに!!



第 2 病棟

楽しい院外活動

指導員 原島 勝

今年最初の 2 棟院外活動は、5 月 10 日(火)にブーさんに会いに行き、芸術、美味しいもの食べ楽しもうと、利用者さん 3 名、職員 3 名の男性のみで、埼玉県にあるサイボクハムへ行きました。

まずは、黒豚さん、茶の豚さん、白豚さんに会い、ブーブーと言いながら御挨拶ブー。

そして、お皿、コップ等、好きな陶器に思い思いの絵を描き、自分だけの陶器を作成ブー。作品は、すぐに持ち帰りたかったけど、焼きあがるまで一ヶ月程待ち、楽しみは後でブー。



昼食は、バーベキューランチ。お肉、野菜をタラフク食べてもう満足ブー。

お店に行って、ブーさん人形や美味しそうなジュースをお土産してご機嫌ブー。

ひとりの利用者さんが、「アイス、アイス」と言って、皆で仲良くアイス食べ満足ブー。

ともあれ、男だけの楽しい一日でした。

第 3 病棟

「神代植物公園」散策

指導員 難波 正弘



5月25日(水)、梅雨入り前の不安定な天気予報でしたが、利用者さん、同行したお母様、そしてスタッフの願いが通じ、当日は快晴!心地良い風が吹いていました。そんななか、「神代植物公園」に行ってきました。到着していきなり驚いたのは、平日の午前中だということに、なんと予定していた駐車場は満車・・・でもそんなハプニングも院外の楽しみのひとつ、臨時駐車場から昼食場所まで移動しました。若い人・お年寄り、車椅子に乗った施設利用者の団体さんなど、たくさんの人と触れ合いながら、美味しい深大寺そばをいただきました(店頭に並ん

でいた出来たてのお団子やお饅頭も美味しそうでしたよ～)。

深大寺門から園内へ入り、さぁ～おまちなかの「バラ園」散策です。園内には約4,800種類、10万本・株の植物が植えられていて、四季折々の花と緑を楽しむことができます。色とりどりの「バラ」や「フジ」の花壇をみて、利用者さんの表情も生き生きとしているようで、「来てよかった～」と思える瞬間でした。花の香りを味わいながら記念撮影、ビニールハウス内で見たくもない植物と遭遇し、ガーデンビューロー(屋外の喫茶店です)で美味しいフロートをいただきました。

花と緑のオアシス、おすすめスポットです!

第 4 病棟

「行ってきました、いちご狩り!」

指導員 河合 美江



5月25日(水)、前日までの天気が嘘のよう!!天候にも恵まれ、バスに乗っていちご狩りに行って来ました。

ほぼ貸し切り状態のビニールハウス内では、とっても甘い『章姫・紅ほっぺ』をお腹いっぱい頂いてきました。そんないちごを使って『ジャム作り』にも挑戦。お鍋でコトコト煮詰めている時から甘い香りにつつまれ、いちごでお腹いっぱいだったはずなのに、どんな味に出来上がるのかと、皆でワクワクしてしまいました(笑)その後、マッサージも受けてうっとり...

昼食は、鰻に、かつ丼に、お刺身に...各々の好きな料理に舌つづみ。病棟とは違った笑顔にあふれた1日となりました。

通 所 施設交流会に行ってきました

指導員 水野 豪

5 月 13 日 (金)、立川市泉体育館で開催された施設交流会に通所利用者さん 3 名の方々が参加されました。多摩地域の 12 施設から 93 名の利用者さんが集結するとあって、会場は開会式から活気に満ち溢れていました。

まずはそれぞれ作ってきた名刺を交換して自己紹介。似顔絵や好きなタイプも載せておいたので、O さんはお友達が出来たみたい。そして紙テープを引っ張り合う紙相撲で、I さんはなんと 7 連勝！続いての「物送りゲーム」は、輪になった皆さんがそれぞれお隣に様々な刺激グッズを回していくゲーム。アイスノンを手にした Y さん、慌てて眼をぱちくり。最後の「宝探しゲーム」は指令書と同じ色の箱を探して、中身の品を取ってくるゲーム。

利用者さんも職員も大騒ぎ！お宝の品である可愛い手作りしおりと、交換した皆さんの名刺をお土産にして、施設交流会は幕を閉じました。



栄養科 あ・ら・かると♡



誕生日食 (和食) ▲

◀ 東北ご当地バイキング



◀ 仙台牛タンハンバーグ

▼ 誕生日食 (洋食)



■ 一度は重症心身障害児施設で働こう ■

医長 曾根 翠

私が初めて重症心身障害児施設(病棟)で働いたのは、国立精神・神経センターのレジデントの時である。そこで、ケース会議という、患者の生活・医療・教育について多職種で話し合う会議を初めて体験した。患者一人一人について、一年間の発達や健康状態、家族の情報など、実に多岐にわたる内容を総括し、その後の方針と分担を決める話し合いは、医師のみでは得られない患者や家族の情報を知り、コメディカルスタッフや教師がどのような問題意識を持ってどのように取り組んでいるかを知る貴重な機会であった。

その後大学病院に戻って外来診療にあたったが、そこにはコメディカルスタッフも学校もなく、家族のみが情報源且つ実施者であることにとても不自由した。2年後に縁あって再び重症心身障害児施設で働くことになり、その後現在まで延々と重症心身障害児施設に勤務している。

重症心身障害児施設のかつての役割は、重症心身障害児(者)に医療を基礎とした生活の場を提供し、医師、看護師、生活支援員、リハビリテーションスタッフ、医療ソーシャル・ワーカー、栄養士など全職種が話し合っており、入所者の心身機能の向上(成人では維持・低下予防)と生活の質向上を目指すことであった。対象が多いため長期入所する重症心身障害児(者)に限られていたため、華々しい救急医療や稀な疾患を発見するという小児神経科医の醍醐味からは遠く離れた、地道な医療であった。けれども、生活の中で発達を支えるという意味では北九州市総合医療療育センターの高松鶴吉氏が提唱した「療育」=「現在のあらゆる科学と文明を駆使して障害児の自由度を拡大しようとするもので、その努力は優れた『子育て』でなければならない」を、細々とながら長年にわたって実施してきた場所といえる。

その後、福祉施策が大きく変化し、現在の重症心身障害児施設の多くは在宅重症心身障害児(者)に対して通園や短期入所などの福祉サービスを行っている。このため、重症心身障害児施設は、在宅重症心身障害児の実際の生活も知ることのできる場所となった。なぜなら、通園や短期入所では利用者の生活介護に連続性を保つため、家庭での生活状況を詳しく聞かなければならないからである。栄養チューブの固定や気管切開孔の管理などの医療ケアにしても、家庭で行われているケアには、「なるほど!」と感心する工夫から、「それはないでしょ!」と首をひねる迷(?)案まで、医療職では想像もつかないような技があり、実に興味深い。どこことなくがずれていることも多々あるけれど、おしゃれで堅実で、母の障害を持つ子供への愛情が溢れている。これこそ「医療的ケア」である。

また、重症心身障害児施設では、多くの施設でケース会議を定期的に行っていることから、医師と他のコメディカルスタッフとの連携も病院より良い。そうしたスタッフの力を借りられることも、重症心身障害児施設で働く医師の強みである。治療以外のことで困ったときはスタッフに依頼すれば、地域の保健福祉施設まで連携の輪が広がられていくこともしばしばである(けれども、スタッフのあらゆる取り組みを総合的に統括し、責任を持つのは医師の大切な仕事であることを忘れてはいけない)。異なる領域のプロフェッショナルから学ぶ姿勢を忘れなければ、自分自身の知識も増えていく。家族も生活が楽になるので、まさに「一石二鳥」である。

小児神経科医は、病気を診断するのみではなく、その後長い期間主治医として障害児とその家族を支えていかなければならない。たとえ勤務先がリハビリテーションや療育をしない病院であったとしても、それらの機関と協力して問題を解決する道を作ることができれば、重荷を多施設で分担できる。

重症心身障害児施設は、療育、医療的ケア、他の専門職種との連携を学ぶには格好の場所である。また、後に重症心身障害児施設と連携をとる機会があれば、相互理解を深めるためにも役立つであろう。小児神経科医として、障害児医療に携わる若い医師たちには、重症心身障害児施設で1~2年間働くことを強くお勧めする。

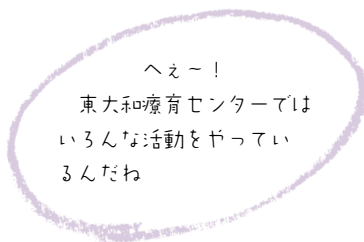
Welcome to the medical center for persons with severe motor and intellectual disabilities!

出典：株式会社診断と治療社 脳と発達(第43巻・第2号)

●○●行事とボランティア募集のご案内○●○

第19回夏祭り

日時 2011年8月5日(金)
例年より規模を縮小して実施する
予定です。
ご協力よろしくお願いたします。



第2回東大和療育センターフェスティバル (略称: 東大和フェスタ)

日時 2011年10月15日(土)10:00～15:00
場所 東大和療育センター敷地内
内容 ふれあい動物園・熱気球係留体験等
☆当日、お手伝いしてくださるボランティアさんを募集
しています。
詳細はホームページ (<http://www.hmc-smid.jp/>) を
ご覧ください。



●○●院内研修○●○

4・5・6月の院内研修

基礎コースⅠ	○新任オリエンテーションⅠ・Ⅱ ○摂食・嚥下障害ケア(第1回) ○看護(療育)記録
基礎コースⅡ	○救急看護
一般コース	○療育研究(第1回) ○リーダー研修(第1回) ○療育研究(第2回)
専門コース	○摂食・嚥下障害ケア(第1回) ○呼吸ケア(第1回)
管理コース	○昇任時主任研修

7・8・9月の院内研修予定

基礎コースⅠ	○安全管理	9/2 (金)
基礎コースⅡ	○摂食・嚥下障害ケア	7/12 (火)
	○呼吸ケア	9/8 (木)
基礎コースⅢ	○安全管理	9/16 (金)
一般コース	○療育研究(第3回)	7/15 (金)
	○看護診断	9/13 (火)
専門コース	○摂食・嚥下障害ケア(第2回)	7/4 (月)
	○呼吸ケア(第2回)	7/29 (金)



●○○●入所者さんの作品展示○○●



●○○●新茶体験○○●



「夏も近づく八十八夜・・・♪」5月10日美味しい新茶が振る舞われました

編集後記

今年の夏は、表紙にもあるように各病棟でグリーンカーテンを作ります。節電対策の一環として始めたものではありませんが、緑に囲まれて過ごすすがすがしい気持ちになれそうですね。

各病棟、どんな植物でグリーンカーテンが完成するのかとても楽しみです。ご期待あれ!!(M.M)。

そよ風第 65 号

編集 院内報そよ風編集委員会

発行日 平成 23 年 7 月 15 日

発行 東京都立東大和療育センター

東京都東大和市桜が丘 3 - 44 - 10

☎ 042-567-0222

印刷 有限会社 はじめ印刷

☎ 042-560-3031